KSKR

奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

The Kizuna

No.223

2017 Feb.

2

http://www.eonet.ne.jp/~asn/

発行人：
関西障害者定期刊行物協会
編集人：奈良県自閉症協会
支部長＆事務局：河村舟二
〒639-1005
大和郡山市矢田山町 84-10
購読料１部　１００円
会員は会費に含まれています。

一九九六年五月一日発行第三種郵便物承認　毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行

今年、2017 年 4 月 2 日の世界自閉症啓発デーは奈良県にとって画期的な年となります。これまで奈良県に対しては、世界自閉症啓発デーのブルーライトアップの実施をするよう発達障害者支援体制整備検討委員会の席を通じてなんども要請していたのですが、実現しませんでした。

2016 年 NPO 法人あっとオーティズムのホームページ http://happy-autism.com/ を見ると、ブルーライトアップする施設などが記載されていないのは A 県と Y 県と奈良県だけになってしまっていました。全国世界に遅れること 10 年の奈良ですが、このたび大和郡山城天守台展望施設で大和郡山市が実施してくださることになりました。

このいきさつについては、以前この絆でお知らせしたように、今年度の奈良県自閉症協会の総会に来賓としてお越し下さった上田清大和郡山市長から、ブルーライトアップ実施の提案をしていただいたことに始まります。この大和郡山からはじまる一歩が、今後、奈良県で大きく育つように期待しています。

今年の世界自閉症啓発デーについて奈良県自閉症協会では、この 4 月 2 日（日）ブルーライトアップ大和郡山城での活動と、3 月 31 日（金）10 時～ 19 時イオンモール大和郡山２階ブリッジにおける「世界自閉症啓発デー in 奈良プレイベント」を行います。多くの皆様の参加で盛り上げていきましょう。さいごに再度、「世界自閉症啓発デー」が始まったいきさつを載せておきます。（河村）

国連総会 2007 年（H19.12.18 開催）において、カタール王国王妃の提案により、毎年４月２日を「世界自閉症啓発デー」（World Autism Awareness Day）とすることが決議され、全世界の人々に自閉症を理解してもらう取り組みが行われています。わが国でも、世界自閉症啓発デー・日本実行委員会が組織され、自閉症をはじめとする発達障害について、広く啓発する活動を行っています。具体的には、毎年、世界自閉症啓発デーの４月２日から８日を発達障害啓発週間として、シンポジウムの開催やランドマークのブルーライトアップ等の活動を行っています。自閉症をはじめとする発達障害について知っていただくこと、理解をしていただくことは、発達障害のある人だけでなく、誰もが幸せに暮らすことができる社会の実現につながるものと考えております。みなさまのご理解とご支援をお願いいたします。

■特報「やまゆり園」再生

「入所者の意向確認を」

ＤＰＩ日本会議　尾上浩二さん
聞き手・山本昭子

１９人の命が奪われた知的障害者施設「津久井やまゆり園」の再生を巡り、県は入所者約１３０人が戻れる規模を前提に、同じ場所で建て替える方針を示している。１０日には公聴会を開いて関係団体や有識者らの意見を聞き、策定中の基本構想に反映させる考えだ。事件からおよそ半年間の検討プロセスに問題はなかったか-。ＤＰＩ（障害者インターナショナル）日本会議の尾上浩二副議長は「何よりもまず、入所者本人の意向を確認するべき」と指摘する。

■当事者置き去り

建て替え方針を決定した県の検討過程の中で意見を聞かれたのは、入所者の家族会と施設を運営する指定管理法人だけでした。障害者の場合は特に、本人と家族の意見は必ずしも一緒ではなく、利益相反になる場合さえあります。それは障害者と施設側についても同じです。

家族や施設の意見を切り捨てろと言っているのではありません。それぞれ違う意見があるということを前提に、各意見を聞かなければなりません。

この分野で有名なスローガンがあります。「私たちのことを、私たち抜きに決めないで（Ｎｏｔｈｉｎｇ　Ａｂｏｕｔ　Ｕｓ　Ｗｉｔｈｏｕｔ　Ｕｓ）」

障害者本人の意見を聞かず、例えば家族や専門家が良かれと思ってやってきたことが、結果として障害者を社会から隔離、分離してきた歴史があります。

その反省から、第一の当事者である障害者を中心に据えるべきだというのが、日本も批准している障害者権利条約なのです。県は拙速な判断をやめ、じっくりといろいろな立場の人に意見を聞いてほしい。とりわけ障害当事者の意見を丁寧に聞くべきです。

■分離から包容へ

権利条約は、障害の有無によって分け隔てられないインクルーシブ（包容）な社会の実現を求めています。その条約を批准した日本で、大規模な入所施設を同じ場所に再び建て、それが事件に屈しないことだというのは短絡的です。

容疑者は「障害者はいなくなればいい」と言い、「分離」を「排除」まで高めようとしました。だとすれば、「分離」から「完全なインクルージョン」へと転換するのが事件と闘うということです。

県が事件を痛切に受け止めるのであれば、「分離」を固定するような形で施設を建て替えるのではなく、入所者が地域移行できるようにするのが本来的なあり方です。

「理想は分かるが、やっぱり地域で一緒に暮らすのは難しいのでは」という見方があるかもしれません。「入所施設があった方が彼らのためにいいんじゃないか」という、かっこ付きの「善意」によるものでしょう。県のやり方にも「善意」の履き違えがあるのではないでしょうか。

悪意はないとしても、検討の方向を間違えれば、障害者を社会から遠ざけるという意味では、結果的に容疑者の言っている事件の目的に手を貸す方向に進んでいってしまう。

いくら「優生思想は駄目だ」「共生社会を実現する」と言っても、腹の底で「障害者は大変そうだ」「地域移行は難しいだろう」と思っているままでは、建前と本音の分裂です。また誤った歴史を繰り返すのでしょうか。

■聞き取り丁寧に

繰り返しますが、まずは入所者の意向を聞き、一人一人にどういう支援が必要なのかを徹底して考えるプロジェクトが必要です。障害が重いため、本人の意向確認が困難だと言われるかもしれない。しかし、私の知っている重度重複障害の人は、気にいらないときは体をちょっと傾けたりする。言葉で話せなくても、彼らなりの表現をしている。

確かに、会議室に呼んで「今の施設がいいですか、地域で暮らしたいですか」と聞いても答えるのが難しい人もいるでしょう。そうした形式的な聞き取りではなく、グループホームやアパートでの生活の体験も含めた丁寧な聞き取りが必要です。

選択肢を実際に示し、その人がどの環境に身を置いたときに一番いい表情をするかを見極めることこそが、本来の意味で「聞く」ということです。そうした聞き取りのプロセスを、日々の支援の中ですでに実践している団体もあります。

仮に建て替えるにしても４～５年かかります。その時間があれば、体験も含めて当事者の意見を確認することができるのではないでしょうか。「私たちのことを、私たち抜きに決めないで」という世界的な流れに沿った形で、当事者の声を徹底して聞くことを大切にしました、ということこそが世界に誇れるのではないでしょうか。

■地域生活支援を

事件そのものの重大性と影響を考えると、単に一施設、あるいは相模原市、神奈川県だけの問題ではありません。海外のマスコミに取り上げられ、ホワイトハウスも含めてお悔やみの言葉があり、「障害者排除」の克服は世界的な課題とも言えます。

県は率先して、２１世紀の障害者福祉のあり方を示すべきです。聞き取りの結果、グループホームやアパートでの生活を希望される方がいるはずです。現行の国の報酬体系で実現が厳しいのであれば、県独自の加算を付けて地域生活をサポートすることをモデル的でもいいからできないでしょうか。建て替えにかかる６０億～８０億があれば十分、約１３０人の希望に沿った住まい方と、特別加算体制がつくれるだろうと思います。

事件を受けて県が定めた共生憲章には、「誰もがその人らしく暮らせる地域社会を実現します」とあります。

単なるうたい文句でなく、この憲章に沿った形で同園再生の基本構想をつくるべきです。

基本構想についての公聴会には、前述のように丁寧な聞き取りを行っている先進的な団体などに参加の案内を出しているのでしょうか。県内の約８０団体などに参加を呼び掛けているそうですが、予定のわずか３時間では各団体に十分な発言時間が与えられないのではないかと懸念します。意見の理由などをじっくり聴き、熟議することはとても無理だと思います。

かつて、障害当事者とさまざまなやりとりを重ねながら独自の施策をつくりあげてきた県の歴史を多少は知る者として、とても残念に思います。

神奈川新聞　2017.1.6　論説

障害者施設　在り方見つめ

相模原殺傷事件から半年

「あい・アドバンス今井」が造った公園。中心に植えたモミの木には、障害者も健常者も分け隔てなく触れ合う地域を―との願いがこもる「あい･アドバンス今井」が造った公園。中心に植えたモミの木には、障害者も健常者も分け隔てなく触れ合う地域を―との願いがこもる

神奈川県相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で１９人が刺殺され、２７人が負傷した事件から２６日で半年がたった。この間、事件に衝撃を受けた長野県内の施設も、不審者の侵入を防ぐ訓練や防犯カメラの設置などの対策を進めてきた。一方で、関係者らには、施設に壁を築いても解決にはならないとの思いが募る。事件をきっかけに、地域に開かれた施設や障害者福祉の在り方を改めて見つめ、模索を続けている。

「全くの想定外でした」。重度の知的障害者が入所する松本市の「あい・アドバンス今井」施設長、窪田秀志さんが半年前を振り返る。抵抗するすべのない人に向けられた暴力に強い衝撃を受けた。

事件後、県や県警の指導もあり、不審者対応マニュアルを作成。新たに来訪者に氏名や住所の記入を求めて入場許可証を出し、見慣れない人には積極的に声を掛けるようにした。今後、防犯カメラとセンサーライトを各４台設置し、警備会社に緊急通報するシステムも導入するという。

同時に窪田さんは、こうした対策が「地域との間に心理的な壁をつくらないか」とも懸念してきた。

同施設は､事件前の昨年４月から、隣接する雑木林３５００平方メートル余を切り開き、誰でも自由に入れる公園の整備を進めてきた。雪が消えたら地元の住民や近くの松本短期大の学生らにも呼び掛け、花壇も作る計画という。

事件後の１０月、この公園に込めた願いを象徴するモミの木の苗木を１本、中心部に植えた。「障害の有無に関わらず、いつまでも多くの人が集える場になってほしい」と窪田さん。モミの木が大きく育ち、施設だけでなく地域のシンボルになることを願う。

埴科郡坂城町の知的障害者支援施設「ともいきライフ月影」は事件後、幅９メートルほどの門を日中は開けたままにしてきた。「気軽に立ち寄ってもらえる施設」でありたいと、地元小学校との交流会や季節の祭り､ボランティアの受け入れなど、年２０回ほど地域と触れ合う機会づくりに一層心を砕いてきたという。

入所している宮本仁さん（３３）は年に１、２回、開いた門から施設を抜け出して、近くの民家の敷地に入ることがある。そのたびに住民が施設に電話してくれるという。母親のミエ子さん（６７）は「息子のことを地域の人たちに知ってもらっている安心感は大きい」と話す。

所長の大野政博さん（５６）は事件を機に、かえって「施設と地域とのつながりが問われている」と思い直した。今のところ、防犯カメラを取り付ける予定はない。

「防犯カメラを増やし、塀を高くしても事件がなくなるわけではない」。障害者福祉に詳しい長野大の旭洋一郎教授（社会福祉学）も話す。障害に応じて１人暮らしやグループホームなど「障害者が地域での生き方を選べる多様な支援が必要。今は施設や障害者福祉がどうあるべきかの分岐点にある」としている。

信濃毎新聞（2017 年 1 月 27 日）

やまゆり園問題

入所者の声よく聞いて

相模原市の障害者殺傷事件から半年余り。現場となった神奈川県立津久井やまゆり園の建て替えを巡り、入所者の希望をくみ取るべきだとの声が広がる。地域の中に包み込んでいく理念を貫きたい。

最寄り駅から二キロ離れた山あいに、ほぼ半世紀前に建てられた知的障害者の支援施設である。

入所者の家族会や運営法人の要望を聞き入れて、県は現地での建て替え構想を示してきた。定員百人を超す大規模施設の再建という。

ところが、年明けの公聴会で異論が相次ぎ、再検討を余儀なくされた。実現を急ぎたいという県の誠意も分からなくはないが、障害者福祉の基本原則をしっかりと踏まえたい。

個人の尊厳を守り、自己決定権を保障する。こうした視点からじっくりと議論を重ねるべきだ。

まず、肝心の入所者本人の正直な気持ちを、丁寧に確かめる手続きが欠かせない。家族の意向とは往々にして一致しないからだ。それは健常者でも同じだろう。

地域のグループホームやアパート、自宅といった多彩な住まいの選択肢を用意する。いろいろな暮らしを味わって初めて、希望がはっきりする。知恵を出し合い、入所者の意思決定を助けてほしい。

そうした誠実な営みを通じてこそ、障害者に寄り添う包容の精神を、社会は示すことができる。

さらに、地域から遠くの施設へと障害者を切り離すという、旧来の発想を断ち切らなくてはならない。施設から地域へという人権を重んじる流れを大事にしたい。

地域への移行が難しいから施設に託しているというのが、家族会の思いという。とすれば、地域生活をきちんと支える仕組みの充実を、県は優先すべきではないか。

いったん大規模施設を建てると、行政はその維持管理に躍起となりがちだ。地域の福祉資源への目配りがきかなければ、家族は施設に頼らざるを得なくなる。

身の回りの世話に疲れ切った家族が、やむなく施設に預ける。施設職員だった相模原事件の容疑者が「障害者は不幸しかつくれない」といった優生思想を抱くようになった背景には、そういう悪循環があったのではないか。

障害者への偏見や差別をなくすには、懸命に生きている姿を見せることが大切である。いつも隣近所で、学び、遊び、働いているような地域づくりをめざしたい。

それは、人種や性、信仰などの違いを認め合う多様性に富んだ寛容社会の構築につながっている。

東京新聞　2017 年 2 月 3 日【社説】

２０１７．２．３

一般社団法人　日本自閉症協会

グループホームに関する意見（案）

（グループホームに関する懇談会参加のための考え方整理）

１．次期報酬改定に向けた意見

１）基本報酬単価の引き上げ

○　７％程度の引き上げを希望

（理由および補足）

(1) 当年度の最低賃金の引き上げ幅は３％程度（地域、年度で違いあるが）

(2) 昨年の春闘の結果で昇給率は２．１７％となっている。

(3) 職員の採用は厳しくなってきているが、グループホームは早朝、夜間など条件が厳しい面がある。少人数で運営するグループホームは特に良い人材の確保が必要であり、労働条件の向上が必要である。（処遇改善の加算について見直しがされているが、ベースとなる部分について世間並みのことを行った上で、どう改善を積み重ねるかである。）

２）大規模住居等減産の見直し

○　入居定員が８人以上の場合、報酬が９５％に減算されることとなっているが、減算対象となる施設の入居定員を１０人以上に変更することを希望。

（理由および補足）

(1) グループホームを大規模化することは本意ではないが、自閉症や知的に重度の人など支援の難しさや、多くの支援が必要な人が多いところでは、手厚い職員体制が必要となる。

(2) 活動量が多い時間帯については、職員を手厚く配置して、トラブルを未然に防ぐことや、トラブルがあっても適切な対応ができるようにしていくことが大切である。

(3) 現在の制度では定員が８人以上で大規模住居で減算の対象となる

が、この人数では減算とならないようにすることが必要である。
(4) 施設を減らしグループホームを増やすという流れであるが、自閉症や知的に重度で、身体的な障害はなくても行動上の問題があったり、多くの支援を必要としている人が利用できるグループホームが大幅に不足している。このような人が利用できるグループホームを増やせるよう制度の見直しが必要である。
３）日中支援加算
※　当加算は65才以上または障害支援区分４以上の障害者であって、日中を共同生活住居の外で過ごすことが困難な利用者に対して支援した時に539単位（対象者が２人以上の場合は一人あたり270単位）1単位は約10円。
７時間以上の長時間の支援を行った場合に新たに次の加算を行うことを要望。

○　65才以上又は障害支援区分３以上の障害者であって、日中に他の障害福祉サービスを利用して過ごすことが困難な利用者に対して７時間以上支援した時に次のとおり算定する。
＜平日＞　800単位（対象者が２人以上の場合は一人あたり640単位）
＜土日、祝祭日＞　平日の単位×1.3とする。
（理由および補足）
(1) 入所施設については空きがないこともあり、今後は自閉症や重度の知的障害の人のグループホーム利用が増えてくると考えられる。しかし、グループホームでは基本的に日中の活動を行う機能はなく、特に土日については生活介護などの事業所についても営業をしていないことが一般的である。一人で生活することが困難であり、また、他の利用者とのトラブルなど問題が生ずる可能性のある人についての支援の仕組みを整えていくことが必要である。
(2) 区分が３で行動的なため、他の利用者などが困るなど支援が必要なケースもあるため、区分３以上を対象とした。
(3) 一人で過ごすことが困難な人を対象とするため、支援の時間数については、７時間以上／日とした。
(4) ２人以上の場合でも、社会性の課題がある自閉症の人や重度の知的障害であるなど、他の人と関わって一緒に過ごすことが困難な人については、個別の支援が必要であり２人の利用者に対して１人の支援者で対応することは現実的には難しい。このため２人以上については、現状の50%程度となる基準を80%とした。
(5) 支援時間が７時間未満の場合は現在の基準を継続する。
４）入院時支援特別加算
　次のとおり変更を希望。

【現在】
病院又は診療所を訪問し、入院期間中の被覆などの準備や利用者の相談支援など、日常生活の支援を行うとともに、退院後の円滑な生活移行が可能となるよう、病院または診療所との連絡調整を行った場合
・入院期間が３日以上７日未満
　561単位／月
・入院期間が７日以上
1,122単位／月
【変更案】
病院又は診療所を訪問し、入院期間中の被覆などの準備や利用者の相談支援など、日常生活の支援を行うとともに、退院後の円滑な生活移行が可能となるよう、病院または診療所との連絡調整を行った場合
・入院期間が３日以上７日未満
561単位／月
・入院期間が７日以上１５日以下
1,122単位／月
・入院期間が１５日以上
1,683単位／月
（理由および補足）
(1) 入院期間が７日以上の場合、１カ月まで同額となるが、期間が長くなれば病院とのやりとりも多くなり、関係者との相談調整が必要となることも多いため、15日以上の新設を要望。
５）長期入院時支援特別加算
【現在】
病院又は診療所を概ね週に１回以上訪問し、入院期間中の被覆等の準備や利用者の相談支援など、日常生活上の支援を行うとともに、退院後の円滑な生活移行が可能となるよう、病院又は診療所との連絡調整を行った場合（３月に限る）
・入院期間が３日以上　122単位／日（指定協働生活援助事業所の場合）
【変更案】
病院又は診療所を概ね週に１回以上訪問し、入院期間中の被覆等の準備や利用者の相談支援など、日常生活上の支援を行うとともに、退院後の円滑な生活移行が可能となるよう、病院又は診療所との連絡調整を行った場合
・入院期間が３日以上　150単位／日（指定協働生活援助事業所の場合）
・家族・親族などの支援が受けられない場合には、さらに50単位／日の加算を行う。
（理由および補足）
(1) 利用者が入院した場合でも、事業所の職員体制は入院していない時と概ね同程度を維持する必要がある。その上で、病院との連絡や、支援が必要となる。
一方で、入院をすると通常の給付費は受けることができなくなり、経営は厳しくなることから、28単位／日の増額を要望する。
(2) 現在の水準は、入院していない

状態の半額程度の給付費となっており、この増額を求めたい。（変更案も入院していない時の水準には届かない水準とした）

(3) 保護者が高齢化したり、さらに亡くなられるなど、家族の支援がない場合は入院中の支援はグループホームが全面的に行う必要がある。この場合は、グループホームが全面的な支援を行う必要があることから、この負担へ対応することへの加算制度の新設を求めたい。

２．グループホームの利用者像に関する考え

１）社会性、コミュニケーション、興味の偏り、こだわりなどの特性を持つため、他の利用者や世話人、支援員との関わりについて、配慮が必要である。

２）集団生活よりも、一人ひとりの好みを尊重し、生活リズムが守られるよう、配慮が必要である。

３）言葉を獲得していても、適切なやりとりができず、トラブルになることがある。障害特性や関わり方を学び、経験を積んだ職員が必要である。この体制ができない場合、利用者も職員もつらい思いをすることが懸念される。

４）余暇を一人で上手に過ごせない人がいる。このため、施設などからグループホームに帰宅した後の支援、土日・祝日などについて、具体的な活動を考え、手厚い支援が必要な人が少なくない。

５）企業、施設など、利用者の行動の全般について関係先と連携して、必要な対応をしてもらうことが必要である。

６）表面的な言葉にとらわれず、本人を理解した支援が必要である。

７）６５才以降は介護保険が優先されるとのことで心配がされている。６５才前に障害福祉の事業の利用を開始していれば、継続できるとのことも聞いているが、具体的に確認をしたい。特に、自閉症の特性を持つ人は変化に弱いこともあり、６５才になってから老人施設に変わることを求められると厳しいことになる。

８）金銭管理については、成年後見制度を中心に考えられているように感じるが、現在の成年後見制度は日々の金銭管理の支援などに対応できていない。また、障害特性を含めて、本人をよく理解した上で支援をすることが必要であり、これに対応できる成年後見人は少なく、対応すれば相当の時間が必要となることも考えられ、経済的に成り立たないことも考えられる。もっと、利用者によりそった使いやすい支援を考える必要がある。

３．前回の懇談会後に配布した共通要望事項に関する対応

※　配布された共通要望事項を認識できていません。確認して、協会に関係する重要事項があれば再度相談しますが、とりあえずグループホームにも関わる制度上の問題についていかに記載します。

１）支援区分の見直しが必要である前回の見直しで改善されたこともあるが、依然として低くでているケースがある。

低く出てしまう背景は大きく２つあると考える。

(1)　自閉症の困難性が基準の中に、十分に反映されていない。

(2) 面接評価者および面接時の説明者の知識不足による不十分な面接結果。

例えば､母親と一緒に生活しており、母親が支援をしているためにできていても、一人ではできないことが、面接で「できる」ことになってしまい障害が軽く判断されてしまう。審査会でこのことの改善ができると良いが、審査会では面接評価の結果をもとにするため、適切な判断で十分な判断による修正もできない。

２）前回、グループホームから一人暮らしへの移行をすすめる動きを聞いたが､この考えには不安を感じる。

(1) グループホームを出た場合、家賃負担など生活に必要な費用が大きく膨らみ生活が成り立たなくなる人が少なくないと思われる。家賃補助などが必要である。

(2) グループホームを出たが、その後、アパートなどでトラブルになっても、グループホームは他の人が入居してしまい、戻るところがなくなることも懸念される。

(3) アパートでは周りの人との関わりや、金銭管理など毎日の支援については、グループホームより大幅に低下する。

(4) 十分に対応できる人がでることは良いが、できるだけ早く、グループホームからアパートへなどという方向づけは問題がある。慎重にしてほしい。

３）現在、多くの地域では就労継続支援や生活介護の支給日数の上限は２３日／月である。このため、一人で過ごしたり活動することが難しい重度の利用者は土日・祝日、正月などは自宅で過ごしているケースが多いと思われるが、親も高齢化しており将来が心配となっている。日中一時支援やホームヘルプ、移動介護などを利用する人もいるが、地域ごとに使い勝手に違いがあり、さらに休日は利用希望者が多く利用できないことも多いことや、平日に利用できる事業と比べると専門性が低く、支援体制も弱い事業が多い。どの地域でも、土日も平日と同様に安定した支援を受けられるよう、整備が必要である。

４）財政面が厳しくなり、グループ

ホームの開設についても助成を受けることが難しく、自力で資金調達を行うことが通常となってきている。規模の小さなところではこの資金調達は難しく、さらに個人補償を求められることも多い。資金調達をしやすいように、保証制度などを整備してほしい。

５）現在も、あちこちで建設の反対運動があると聞く。障害者差別解消法の観点から見ても、あってはならない話である。

以　上

作成・津田

相模原殺傷、障害者ら追悼集会　事件から半年

相模原殺傷事件の犠牲者のために祈る人たち＝２６日午後、横浜市

相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で１９人が刺殺され２７人が負傷した事件から半年を迎えた２６日、障害者や支援団体などが横浜市内で追悼集会を開いた。冒頭、参加した約３００人が黙とう。「障害のある人とともに生きる神奈川県をつくるため、それぞれが努力することを誓う」とするアピールを採択した。

主催者を代表して日本グループホーム学会（横浜市）の室津滋樹事務局長があいさつし「障害者が地域で普通に暮らすために知恵を集めることが、亡くなった方の気持ちに応えることにつながる」と訴えた。

秋田魁新聞　2017 年 1 月 26 日

ADHD、脳の大きさにわずかな差

大規模研究で確認　【AFP ＝時事】

注意欠如・多動性障害（ADHD）と診断された人の脳は、ない人に比べてわずかに小さいとする研究論文が 16 日、発表された。ADHD は身体的な疾患であり、単なる行動の問題ではないと論文は主張している。

研究者らは、ADHD の人の脳についての分析が過去最大規模で行われた今回の研究で、「構造的な違い」や発育の遅れの証拠が見つかったとしている。

オランダ・ラドバウド大学(Radboud University)医療センターの Martine Hoogman 氏が率いた研究は、ADHD と診断された 1713 人と ADHD のない 1529 人を対象に行われた。研究論文は、英精神医学専門誌ランセット・サイキアトリー(Lancet Psychiatry）に発表された。

子どもに多く診断される ADHD では、不注意、多動性、衝動性の症状がみられ、学校や家庭において支障をきたすことがある。

ADHD の原因をめぐっては論争が続いており、なかには難しい性格の子どもを抑えるための薬を使う口実にすぎないとか、親が悪いとする専門家もいる。ADHD 治療に使用されるリタリンのような薬については、副作用があることも指摘されている。

今回の研究では、4 歳から 63 歳までの被験者らに MRI スキャンを受けてもらい、その結果を分析。脳スキャンの画像から、脳全体および障害に関連すると考えられている 7 つの領域の大きさが測定された。その結果、ADHD と診断された人の脳では、全体そして 5 つの領域がより小さいことが確認された。

研究結果について Hoogman 氏は「その差は極めて小さく、数％の範囲内だった。これらの差を見極めるうえで、研究が前例のない規模であったことが大いに役立った」と述べている。違いが確認された領域には、情動の制御をつかさどるへんとう体も含まれていたという。

研究では、ADHD の薬の投与有無と脳の大きさには関連性は見られなかった。これにより薬が脳の変化に寄与していないことが示された。

Hoogman 氏は、「研究を通じて構造の違いが確認され、ADHD が脳の疾患であることが示された」としながら、「この研究結が、ADHD を『単なる難しい子ども』や『親の教育の問題』とするレッテル貼りをなくす一助になることを願う」と話した。

【翻訳編集】

AFPBB News 2017 年 2 月 17 日 11 時 51 分

第６回
グループホームについての団体懇談会

（2017.2.9　13：30 ～ 16：15　日本知的障害者福祉協会事務所）

以下、グループホームについての団体懇談会のやりとりのポイントを報告します。

（幅広い意見交換をしながらのメモであり、記録しきれていないこともあります。）

■　参加者　１７名

グループホーム学会、きょうされん、DPI 日本会議、全国精神障碍者地域生活支援協議会（あみ）日本知的障害者福祉協会、全国社会就労支援センター協議会、日本自閉症協会

※　当協会は津田が出席（意見については、協会で決定されたものではないことをあらかじめ説明）

■　内容

１．グループホームの利用対象者像をめぐっての意見交換

(1) 利用者像は制度開始時より幅が広がっている。重度の人、知的に高い人、それぞれ少人数定員で職員が少ないところでは、職員の負担が高く対応が難しい、（津田）

(2) 自閉症の人は変化への対応が苦手であり、65 才で変わることは問題である。（津田）

(3) 厚労省は障害程度区分がつかない人については、支援の必要がないので、グループホームを利用する必要はないのではないかと、対象からはずす方向での検討がされている。

(4) グループホームを卒業しアパート暮らしを進めるために自立生活支援事業の検討がされている。

(5) サテライトも、グループホームから卒業するためのものとして考えられてきた経緯があるが、利用は広がっていない。

(6) 65 才以上の扱いについては、身体障害の人については 65 才以上になってから新規にグループホームを利用できないということは明確になっている。生活介護の利用者については高齢者の施設と同様のサービスなので、介護優先の考えもあるようだが、就労 B は介護保険の制度にはないため、６５才以上でも可能と思われる。なお、市町によって判断の違いもある。

(7) アルバイトをしながら、就労 B を利用することは問題ないはずだが、地域によってはダメというところもある。

(8) 利用者に聞くと大きなグループホームには入りたくない。４～５人の規模がよいと言っている。（精神障害）

(9) 精神障害の方の意見は、他の入居者の人に合わせて生活するのではなく、一人ひとりの生活を守りたいという気持ちが感じられる。入居定員の多い、少ないで考えるのではなく、グループホームの運営の問題として考てることではどうか。私は、８人、９人の規模で運営しているが、一人ひとりの生活を重視して運営をしている。４～５人の規模ではなくても、１０人未満であれば、運営で配慮できると思う。（津田）

２．報酬改定について

(1) 基本報酬の引き上げが必要である。職員の確保が難しくなっている。（津田）

(2) 重度の人については、日中の支援、土日・祝祭日などの支援が必要。親亡き後は、特に重要な問題。入院時の支援も必要で、可能とする報酬への引き上げ必要。（津田）

(3) 個別のヘルパー利用については、経過措置できているが、恒久的なものにしてほしい。

(4) 基本報酬の引き上げを求めるか、個々の加算などの改定を求めるか、やり方を考える必要がある。

(5) 国は、地域ごとに大規模な施設一つに集約しようと考えている。（効率重視）

(6) 施設整備費がでなくなっているというが、実際には金額は減っていない。包括ケアシステムには施設整備費がでており、国の考えの方向としては、障害も介護と合わせたシステムにしていこうとの考えである。

(7) 支援区分についても、市町のバラつきや、現状の基準の問題がある。（津田）

(8) 幅広い利用者の要望に対応することがグループホームとして大切なことであり、大規模な施設にすべて集約していくことは適切ではない。（津田）

(9) 利用者は、休日など日中にヘルパーを利用するか、生活介護など福祉サービスを利用するか、グループホームの中で支援を受けるか、それぞれにあった支援を選択できるようにすることが大切である。ヘルパーの経過措置の問題と加算の要求はバラバラに考えるのではなく、一緒に考えていくことがよいと思う。（津田）

３．スプリンクラーの件

(1) スプリンクラーに変わるものとして、パッケージ型のスプリネックス（モリタ宮田工業）のものがでていたが、価格の高さ、内装制限などの問題があった。

(2) 天井の高さについても 2.4 メートル以下の制限があり、気を付ける必要がある。

(3) 新たに初田製作所がパッケージ型のエスピーアウルミニを出した。こちらは内装制限がなく、液の量もスプリネックスより少ない。

(4) モリタ宮田工業も新しいものを出してきている。

(5) 競争になり、価格も低下方向にあると思われる。

(6) スプリンクラーの設置について経過措置の期限は３０年３月末となっている。設置をしようと考えて業者に相談しても、手間がかかり収益性もよくないこともあり、また、残り期間が短い中で集中してきていることから、業者に断られるケースがでてきている。工事が間に合わなかった場合に、その施設名を公表するとの話もでている。工事をしようとしてできないところは、公表しないなど配慮が必要。

４．津久井やまゆり園の件

(1) ９月に全面建て替えの方針が決まったが、本人の意向を聞かずに決めようとしていたため、聞いて決めるよう求めた。

(2) 施設は待機者が沢山いるので、いずれにせよ建てるという方向で考えているようである。

(3) 施設かグループホームかではなく、どちらでも利用者個々人に配慮をした支援が行われるものにしていくことが重要だと考える。（津田）

５．次回の開催日程

(1) 平成３０年は報酬改定の年であり、意見交換を行い、各団体からの要望についてすり合わせをしていくことが必要である。通常は、半年後だが早めとしたい。

(2) とりあえず、６月２０日（火）に開催することとした。国の日程により変更も考える。

※　当協会としても、厚生労働省への要求内容について、早めに検討していく必要あり。

以　上

毎年 4/2は

国連の定めた

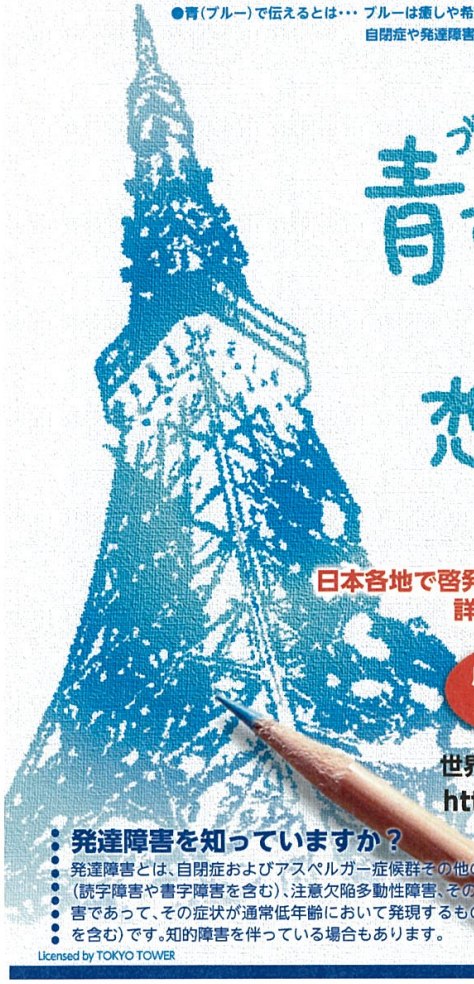
世界自閉症啓発デー

※国連が定める啓発デーには、3月21日の「世界ダウン症の日」もあります。

World Autism Awareness Day

発達障害啓発週間 4月2日～8日

●青（ブルー）で伝えるとは・・・ ブルーは癒しや希望などを表す色です。世界自閉症啓発デー日本実行委員会は、青（ブルー）を自閉症や発達障害を理解していただくためのシンボルカラーとして使用しています。



青（ブルー）でつたえたい
私たちの
想い。

日本各地で啓発イベントが行われます。
詳しくは公式サイトへ

応援メッセージを募集しています

啓発デー

世界自閉症啓発デー 日本実行委員会公式サイト
http://www.worldautismawarenessday.jp/

発達障害を知っていますか？

発達障害とは、自閉症およびアスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害（読字障害や書字障害を含む）、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するもの（トゥレット症候群や吃音を含む）です。知的障害を伴っている場合もあります。

Licensed by TOKYO TOWER

自閉症を知っていますか？

自閉症の人は自分の殻に閉じこもっているわけではありません。気持ちをうまく伝えることや、他人の言葉の意図を理解することが苦手ですが、純粋で一生懸命です。

ブルーライトアップ

大和郡山城

日時　4月2日（日）18:00～21:00
会場　大和郡山城天守台展望施設
協力　大和郡山市観光協会

主催　大和郡山市
特定非営利活動法人
奈良県自閉症協会
ホームページ　「きずな」
http://www.eonet.ne.jp/~asn/
後援　奈良県発達障害支援センター
でぃあー

大和郡山の問い合わせ先
特定非営利活動法人　奈良県自閉症協会
TEL　0743-55-2763　E-mail　kawafune@ares.eoneto.ne.jp

青いものを身に着けての
ご参加をお待ちします。

雨天決行

主催　厚生労働省（発達障害情報・支援センター）　一般社団法人日本自閉症協会
共催　国立特別支援教育総合研究所　全日本自閉症支援者協会　日本自閉症スペクトラム学会　日本発達障害ネットワーク　発達障害者支援センター全国連絡協議会　全国情緒障害教育研究会　全国児童発達支援協議会　自閉症児者を家族にもつ医師・歯科医師の会

世界自閉症啓発デー IN 奈良

毎年４月２日は
国連が定めた世界自閉症啓発デーです
待ちに待った奈良県初のライトアップ！
light it up blue nara"
を盛り上げよう！！

Light it up blue nara yamatokoriyama

共　特定非営利活動法人奈良県自閉症協会
催　奈良県発達障害支援センターでぃあー

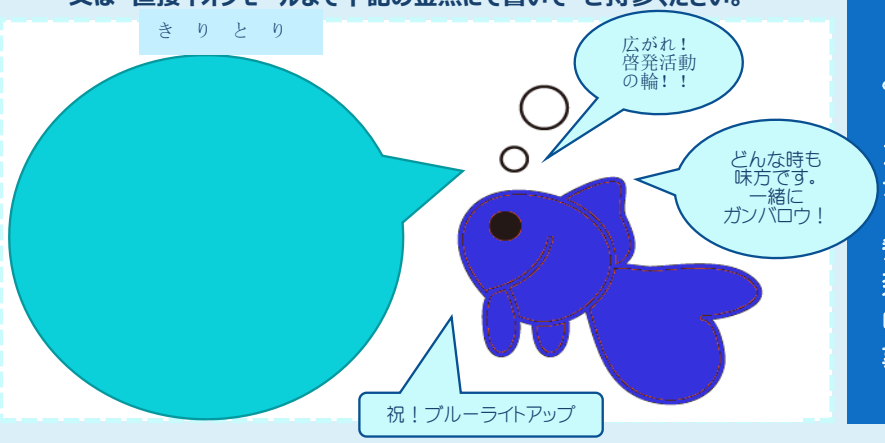
プレイベント開催

日時　3月31日(金曜日)10 時～19 時
場所　イオンモール大和郡山2階　ブリッジ
(シューズショップ RANDA 前)青い幟(のぼり)が目印です

４月２日Light it up blue nara にむけて
1　自閉症体験コーナー　　支援グッズ展示
2　応援メッセージ掲示　　リーフレット他
を　準備して　お待ちいたします。

☆プレイベントサポーターと　応援メッセージ大募集

メッセージはＦＡＸまたは応戦メッセージ募集フォーム
又は　直接イオンモールまで下記の金魚にて書いて　ご持参ください。



４月２日（日）

１１：００～１２：００
啓発の為のティッシュ配布
近鉄こおりやま駅･JR 郡山駅前にて
参加者募集！(定員 10 名程)
配布サポーターor キッズサポーター

ブルー ライトアップ

１８：００～２１：００
社務所近くにて ＊雨天決行
啓発ブース設置
協力スタッフ募集
(17：00～21：00)

応援メッセージ募集

自閉症や発達障害のある方と
その家族への応援メッセージを
お願いいたします
FAX　0744(33)4755
特定非営利活動法人
奈良県自閉症協会ＨＰ
http://www.eonet.ne.jp/~asn/
メッセージ募集フォームから
又は　プレイベント会場まで

リーフレット設置協力
事業所様募集

サポーター募集

＊３月３１日サポーター
＊４月２日ティシュ配布
＊４月２日夜間スタッフ
としてお手伝いしていただける方には
light it up blue nara
オリジナルの青いＴシャツ
を進呈します。

参加お願いできる方は
奈良県自閉症協会ＨＰ
申し込みフォームから
事前に登録ください。

(締め切り3/30)

奈良 PECS 研究会第１回勉強会

「PECS を用いた支援」

講師：南大阪 PECS 研究会代表　中谷正恵氏

奈良 PECS 研究会、１回目の勉強会は南大阪 PECS 研究会の代表の中谷正恵さんをお招きし、重い知的障害のある自閉症のお嬢さんと PECS をどのように暮らしの中に取り入れ、実践されているのかをご紹介いただきます。中谷さんの支援は、基本から汎化まで参考になることがたくさんあるはずです。

日時：2017 年 3 月 15 日（水）10:30～12:00

場所：大和郡山市市民交流館 集会室（大和郡山市高田町 92-16 JR 郡山駅前）

定員：50 名

参加費：会員無料、非会員 1,000 円　（会場での金銭授受が禁止されているため事前振り込みをお願いしております。ご了承ください）

申し込み URL:　https://form1ssl.fc2.com/form/?id=b129767bc3503294

お問合せ：奈良 PECS 研究会　nara.pecs@gmail.com

中谷正恵氏プロフィール

株式会社 童夢 代表取締役 平成元年生まれの次女が知的障害を併せ持つ重度自閉症、また、自分自身も 42 歳のときに高機能自閉症としての診断がおりている。 自閉症スペクトラム支援士（STANDARD）、保育士。 我が子を育てるために学んできたことをベースに 2004 年から個別支援、相談業務を行う。年間約 300 ケースの相談を受けている。

自閉症カンファレンス NIPPON /ATAC カンファレンス２００７京都/日本自閉症スペクトラム学会等多数登壇 / 2012 年、2013 年、2015 年 NHK　E テレ「バリバラ」に出演

セミナー終了後、中谷さんを囲んでランチ会を予定しています（飲食物各自持参）

FAX　０７４５－３５－１０３５

2016 年 3 月 15 日（水）第一回

奈良 PECS 研究会勉強会申し込み用紙

非会員の方にはお申し込みが確認出来次第振込先をご連絡申し上げます。

氏　　名	
住　　所	
所　　属	保護者（家族）　・　教員　・　保育士　・　事業所等支援者　・　その他支援者　・その他
希望の連絡先	FAX　・　e-mail
FAX 番号	
e-mail	PC からのメールが届く設定のアドレスをご記入ください。
	会員　・　非会員
ランチ会参加希望	はい　・　いいえ

ケンケンパ部会
♪活動報告♪
「きいてみよう！
しってみよう！やってみよう！」

今回は今年最後の活動報告をします。12 月 24 日（土）の活動、クリスマスイブということで、特別プログラムでした。講師の先生がクリスマス色たっぷりのスケジュールを組んでくださっていました。

１．マインドフルネス：目をつぶって 5 秒ずつ息を吸ったり吐いたりを繰り返しました。
途中､｢なが一い｡まだ？｣と T が言っていましたが、最後まで何とか参加できました。

２．トランペット：基本練習をしました。リーダーはしっかり者の A ちゃん。しっかり役割を果たしてくれました。まだトランペット初心者の子も、いつもより長い時間参加できていました。「来年はトランペットでクリスマスソングが吹けたらいいですね！」と先生。

３．ブームワッカー：クリスマスソングを奏でました。音を 2 音ずつ担当しました。ブームワッカーは皆で力を合わせないと音楽になりません。それぞれが自分の音を出すことができ、曲が完成しました。
途中から、保護者も誘われて参加。いつもは気楽に見学をしておしゃべり（情報交換？）を楽しんでいるのですが、時々保護者もサプライズで誘ってくださいます。急に誘われるので気が抜けません。何とか足を引っ張らない程度に参加して、大勢で音楽を楽しむことができました。

４.ワーク：ソーシャルスキルトレーニング｡先生が用意したプリントに、それぞれが自分の自己紹介、自分の長所を書くなどしました。人の話を聞くことが苦手な T が「人の話を聞くことができる」に〇をつけていました。ワーク中も先生の話を聞こうとしないので、「人の話が聞けますに〇がついていますけど」先生と言うと、ちゃんとその時は耳を傾けました。書いたことは守る真面目な性格です。

5. クリスマス会：最後にお楽しみのクリスマス会。ジュースで乾杯して、美味しいケーキとシュークリームとお菓子を食べままました。

講師の先生方、今年 1 年どうもありがとうございました。
1 年前と比べると３人とも大きく成長しました。トランペットなど演奏技術の上達、そして集中する時間が増え、先生の指示に応じることも増えました。

子どもたちが楽しみにしている音楽活動､来年もよろしくお願いします。

レポート:栗山（保護者）

活動：毎週（土）10：00 ～ 12：00
問い合わせ：ケンケンパ部会
kenkenpa_autism@hayoo.co.jp

ケンケンパ部会
♪活動報告♪

「きいてみよう！しってみよう！やってみよう！」

今回は１月の活動報告をします。
１月７日（土）、21 日（土）に活動しました。

７日は今年初めての活動でしたが、みんな元気に参加できました。

21 日は講師の先生５人が全員参加してくださいました。
優しい先生に囲まれて子どもたちは大喜びでした♪

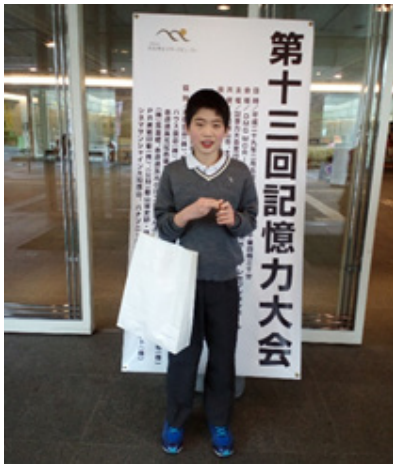
活動：毎週（土）10：00 ～ 12：00
問い合わせ：ケンケンパ部会
kenkenpa_autism@hayoo.co.jp

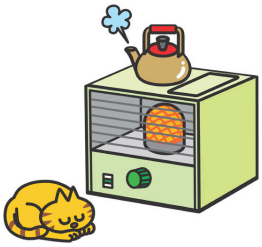
ケンケンパメンバー・栗山智也が記憶力大会・自慢の部に出場！

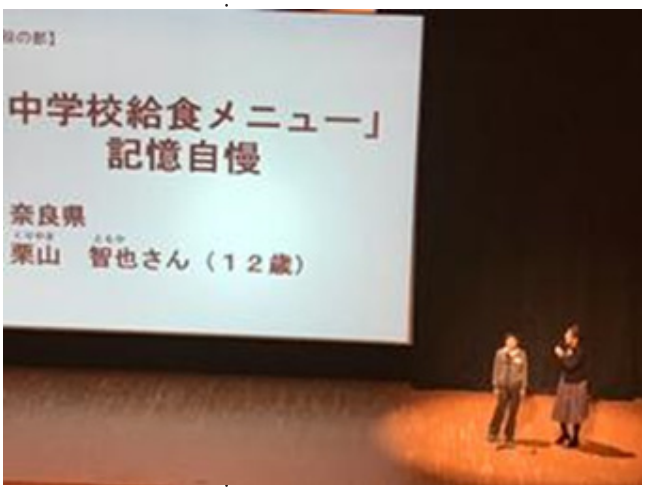
２月５日（日）やまと郡山城ホールで第 13 回記憶力大会がありました。
「自慢の部」に栗山智也（中１）が出場しました。中学校の給食メニューを発表しました。
コミュニケーションは苦手で会話も一方的なのですが、小学校の時から興味のあることへの暗記は抜群でした。いつの間にか学校の給食メニューを１年分くらい暗記していました。どこかで生かせないかなあと思っていたのですが、披露できるチャンスがめぐってきました。

当日は、緊張のせいか「忘れました」と答える場面もありましたが、忘れても動じずパニックにもならずに最後まで堂々とステージの上で発表できました。前後の司会者からの簡単なインタビューにもまともに答えていたので感動的でした。大きな舞台での体験はこれからの宝になると思います。

レポート：栗山（保護者）

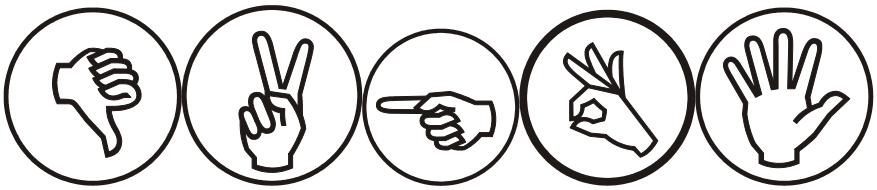






ちょっときいて～ ちょっとしゃべらせて～ の会

― 会員交流の茶話会のお誘い ―



皆さん、日頃はお疲れさまです。年度末になりましたねえ。
学齢期のお子様の方も、青年・成人期のお子様の方も、
新旧会員、どなたでも、ゆる一くお弁当を囲みながら、
ちょっとしたトピックスの話し手になったり聞き手になったり、
ガス抜きしながら、新しい情報をインプットしましょう！
当会ならではの”生きた情報満載”のひと時をすごしましょう！
テーマは、**「進路を考えるとき・生活の自立を考えるとき」**と、
「子と親、先生・支援者とのコミュニケーションについて」

日　時：3 月 6 日（月）12:00～15:00　お弁当・お茶を用意いたします。
場　所：大和郡山福祉会館2階　ボランティア室（駐車場建物奥にあり）
参加費：会員無料　　会員外：お弁当希望の方、実費
申込み：①参加者お名前　②携帯電話番号　を、下記までご連絡願います。
（3月3日㈮PM3時締め切り）
minacoy2@yahoo.co.jp へメール　もしくは FAX：0745-32-1350
facebook「奈良県自閉症協会」をご利用いただいても可！

♡皆様のご参加、こころよりお待ち申しております！
また、一緒に Light it up Blue NARA を盛り上げましょう！

Light it up blue nara ☆彡

ティッシュ配り啓発活動大作戦！

毎年４月２日は国連が定めた世界自閉症デー (*^_^*) 奈良県初！のライトアップが大和郡山市天守台で行われます。当事者さんも保護者さんも支援者さんもこの”light it up blue nara″を盛り上げましょう～！！

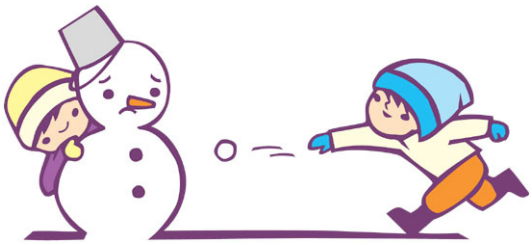
記

☆内容：世界自閉症啓発デーで市民のみなさまへティッシュ配布する
☆日時；4 月 2 日（日曜日） 10 時 45 分集合（オリエンテーション）
11 時～１２時（ティッシュ配布） ※雨天決行

☆場所： ①ブルー・チーム　　JR 郡山駅改札前（８名程度）
②ライト・チーム　　近鉄郡山駅前駐車スペース（８名程度）

☆募集要項：お名前、ご住所、メールアドレス、お電話番号（連絡のつきやすい番号）をお書きの上 kenkenpa_autism@yahoo.co.jp にお送り下さい。後ほどこちらからご連絡させていただきます。また定員を超えましたら締め切りとさせていただきます。予め、ご了承下さい。

担当：ケンケンパ部会　飯田



ケンケンパ部会　「茶話会」　のご案内

ケンケンパ部会で、茶話会をします。高機能自閉症・アスペルガー症候群のお子様をお持ちの保護者の方や当事者の方にご参加いただき、日頃の悩み・情報交換・成長の自慢・ストレスの解消方法・今後の活動の希望など、ざっくばらんに話ができたらと思います。自閉症協会会員でない方でも参加可能ですので、お知り合いに声をかけていただいても結構です！

【開催日】平成 29 年 3 月 14 日（火）10：00 ～ 12：00
【場所】大和郡山市福祉会館　ボランティアルーム（予定）　　大和郡山市植槻町 3-8
※場所が変更となる可能性があります。
〇参加希望の方は氏名・電話番号（連絡先）・メールアドレスを以下のアドレスにお送り下さい。

申し込み・問い合わせ：ケンケンパ部会　kenkenpa_autism@hayoo.co.jp
坂本　050-7303-5649

Light it up blue nara プレ・イベント開催

毎年４月２日は国連が定めた世界自閉症啓発デーです。待ちに待った奈良県初！のライトアップ☆彡” light it up blue nara" を盛り上げよう！！

日時；３月３１日（金曜日）10 時～ 19 時

場所：イオンモール大和郡山２階　シューズショップ RANDA 前

※ 青いのぼりが目印です！

内容：４月２日 Light it up blue nara にむけて

1　自閉症体験コーナー　　支援グッズ展示

2　応援メッセージ掲示　　リーフレット配布

☆４月２日のスタッフ大募集！（当事者さん、保護者さん）

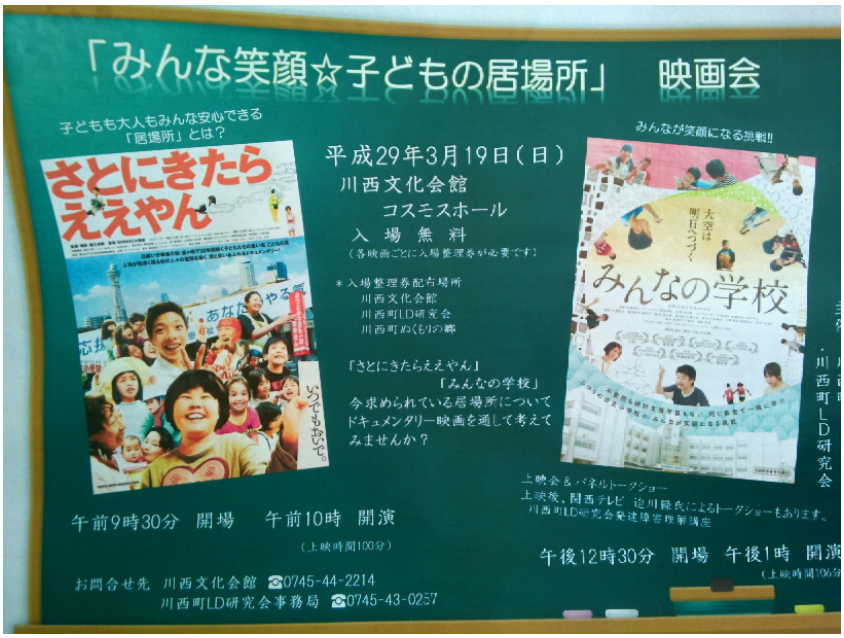
４月２日（日）17:00 ～ 21:00（予定）大和郡山城趾天守台ライトアップにおいて、社務所前のテント内で啓発活動のお手伝いしていただける方には light it up blue nara オリジナルの青いＴシャツを進呈します！※ 31 日、お渡しさせていただきますので事前に以下のアドレスにご連絡ください。

連絡先　田中　康子　ken-tan.m4@ezweb.ne.jp

※同時募集

同日　午前 11：00 ～ 12：00 啓発の為のティッシュ配布を近鉄郡山、JR 郡山駅にて行います。配布サポーター、キッヅサポータ同時募集（定員 10 名程度）

申し込みは kenkenpa_autism@yahoo.co.jp（飯田）



発行人：関西障害者定期刊行物協会
住　所：〒５４３－００１５
大阪市天王寺区真田山２－２　東興ビル４F
編集人：河村　舟二
定　価：１００円

一九九六年五月一日発行第三種郵便物承認　毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行